2. 事業の概要と成果

<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p>ムライティブ県において、紛争によって崩壊したコミュニティが再建され、また帰還漁民の生活が向上する。</p> <p>コミュニティセンターでのプログラム実施によって住民同士の交流が増え、住民組織の活動が活性化して、センターを建設した3村のコミュニティ再建に寄与している。また、漁協運営のせり場や休憩場を建設したことにより、施設を建設した3村の漁民の生活向上に向けた基盤が整った。</p>								
<p>(2) 事業内容</p>	<p>コミュニティセンターのプログラムによるコミュニティの再建支援、せり場建設による生活再建支援ともに、事業はおおむね予定どおりに完了した。</p> <p>(ア) コミュニティの再建支援</p> <p>① コミュニティセンターを利用した各種プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本事業1年次から継続して、以下のプログラムを、コクライ村、コクトルワイ村、コーヴィルクディルプ村の3村のコミュニティセンターで実施した。 <table border="1" data-bbox="470 795 1430 1310"> <thead> <tr> <th data-bbox="470 795 686 840"></th> <th data-bbox="686 795 1430 840">プログラム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="470 840 686 974">コクライ村</td> <td data-bbox="686 840 1430 974"> <ul style="list-style-type: none"> ● 就学児童向け課外授業 (週6日) ● 児童向け語学教室 (シンハラ語・タミル語) (週1日) ● 女性向け啓蒙プログラム (週1日) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="470 974 686 1108">コクトルワイ村</td> <td data-bbox="686 974 1430 1108"> <ul style="list-style-type: none"> ● 就学児童向け課外授業 (週6日) ● 成人向けコンピュータ教室 (週3日) ● 女性向け啓蒙プログラム (月1日/不定期) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="470 1108 686 1310">コーヴィルクディルプ村</td> <td data-bbox="686 1108 1430 1310"> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童向け英語教室 (週2日) ● 成人向け英語教室 (週2日) ● 成人向けシンハラ語教室 (週2日) ● 若年層向けコンピュータ教室 (週5日) (民間会社が運営、場所を提供) </td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ● プログラムの運営にあたり、各村で組織した運営委員会によって建物、会計の管理が適正に行われていることをパルシックススタッフが月に1度確認した。 ● 当団体が実施している上記プログラムの他、村長事務所、住民組織の月例会議、村の行事、住民向けの移動診療所にもセンターが利用されている。 <p>(イ) 生活再建支援</p> <p>① 漁業協同組合運営教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定期的に2村の漁協組合役員と会合を持ち、施設の管理方法や運営に関する状況を確認しながら、助言・指導を行った。 ● 2015年9月、カルナドゥカーニ村の漁協組合員に対して、漁協が運営するジャフナ県のせり場の視察を実施し、今後のせり運営に関する研修を行った。特に、訪問先の漁協が行っている帳簿の付け方に関心を持ち、カルナドゥカーニ村でも取り入れることになった。また、せりから得た利益で組合員へのローンから子どもの教育まで幅広い福利厚生が提供されており、同様の福利厚生を目指したいとの目標ができた。 		プログラム	コクライ村	<ul style="list-style-type: none"> ● 就学児童向け課外授業 (週6日) ● 児童向け語学教室 (シンハラ語・タミル語) (週1日) ● 女性向け啓蒙プログラム (週1日) 	コクトルワイ村	<ul style="list-style-type: none"> ● 就学児童向け課外授業 (週6日) ● 成人向けコンピュータ教室 (週3日) ● 女性向け啓蒙プログラム (月1日/不定期) 	コーヴィルクディルプ村	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童向け英語教室 (週2日) ● 成人向け英語教室 (週2日) ● 成人向けシンハラ語教室 (週2日) ● 若年層向けコンピュータ教室 (週5日) (民間会社が運営、場所を提供)
	プログラム								
コクライ村	<ul style="list-style-type: none"> ● 就学児童向け課外授業 (週6日) ● 児童向け語学教室 (シンハラ語・タミル語) (週1日) ● 女性向け啓蒙プログラム (週1日) 								
コクトルワイ村	<ul style="list-style-type: none"> ● 就学児童向け課外授業 (週6日) ● 成人向けコンピュータ教室 (週3日) ● 女性向け啓蒙プログラム (月1日/不定期) 								
コーヴィルクディルプ村	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童向け英語教室 (週2日) ● 成人向け英語教室 (週2日) ● 成人向けシンハラ語教室 (週2日) ● 若年層向けコンピュータ教室 (週5日) (民間会社が運営、場所を提供) 								

	<p>② せり場の建設</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2014年10月、カルナドゥカーニ村、カラパドゥ村2村の漁民に対し、現在の漁獲の販売方法の聞き取り及びせりの仕組みの説明を行った。 ● 2015年6月、カルナドゥカーニ村のせり場及び休憩所が完成した。6月のオープニング後にせりを開始した。休憩所は、漁網整備や漁協の会議等で使用されている。 ● 2015年7月、カラパドゥ村のせり場及びワトゥワハル村の漁協休憩所が完成した。オープニング後にカラパドゥ村でもせりが開始された。ワトゥワハル村の休憩所は、漁網整備や漁協の会議等で使用されている。 <p>③ 「獲る漁業」から「育てる漁業」への移行</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2015年2月、日本からの専門家、北窓時男氏を派遣し、マリタイムパットゥ郡での漁業の実態、養殖の可能性の調査を行った。調査の結果、3年次に行う養殖の候補地・魚種を以下に定めた。 <ol style="list-style-type: none"> 1) エビ畜養：ナンディカダルラグーン 2) カニ畜養：コクライラグーン 3) 魚養殖：コクライ村、チェマライ村の池、タンニムリブタンク ● 2015年6月と9月に、スリランカ政府養殖業振興局 (NAQDA) の担当者と打ち合わせを行い、当団体の事業及びそれに関わる許可申請について、確認をした。 ● 2015年9月、カニ蓄養が計画されているカルナドゥカーニ村の漁協組合員を対象に、ジャフナ県のカニ蓄養事業地の視察を実施し、カニの蓄養と持続可能な漁業をテーマにしたワークショップを開催した。現地での実施状況を見聞し、より利益が得られるケージの構造を考えるなど、視察を通してカニの蓄養についての方法が具体化し、意欲が増した。
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>(ア) コミュニティの再建支援</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) センターの目的に沿ったプログラムが住民によって月15日以上実施されている。 ⇒9月現在、コクライ村で25日、コクトルワイ村で18日、コーヴィルクディルプ村で22日のプログラムが毎月平均実施されている。 (2) 住民組織による会議が定期的実施されるようになる。 ⇒漁協、農協、村落開発女性委員会、青年クラブの定例会議が各センターで実施されている。 (3) センター近隣世帯の児童の50%以上がプログラムに参加する。 ⇒各村、就学児童の40%～75%が定期的にプログラムに参加している。 (4) コクライ村で、多民族によりセンターが使用され、民族間の

	<p>コミュニケーションが生まれる。 ⇒シンハラ・タミル両民族の子供を対象とした英語教室が実施されているほか、シンハラ語・タミル語の教室も行われており、センターの活動を通して両民族の子供の間でのコミュニケーションが生まれている。</p> <p>(5) コクライ村で、タミル人・シンハラ人を対象とした子供向けプログラムに両民族から 30%以上が定期的に参加する。 ⇒子供向けプログラムに、両民族の就学児童の 45%以上（各約 25 名以上）が定期的に参加している。</p> <p>(6) 食品加工、縫製等の技術研修を通して、4 村で各 10 名以上の女性が定期的に収入を得られるようになる。 ⇒コクライ村及びコクトルワイ村で縫製研修を受けた女性たち（コクライ村 15 名、コクトルワイ村 10 名）が、習得した技術を通して収入を得られるようになった。（コクライ村月平均 1,500 ルピー、コクトルワイ村月平均 500 ルピー）</p> <p>(7) コンピュータクラスの受講者の 75%以上が修了後政府公認のコンピュータ資格を得る。 ⇒コクトルワイ村で実施したコンピュータ教室参加者 22 名のうち、10 名が全コースを終了し、政府公認の試験に合格し、修了者全員に認定書が授与された。</p> <p>(イ) 生活再建支援</p> <p>(1) 漁協がせり場運営を通して月額 4,000 ルピーの収入を得る ⇒せり場の開場式を終え、各せり場でせりを開始した。9 月に漁協が得た利益は、好漁の影響もあり、カルナドゥカーニ村の漁協では 7,800 ルピー（約 6,700 円）、カラパドゥ村の漁協では 18,700 ルピー（約 16,000 円）であった。（カルナドゥカーニ村では、漁協はせりによってエビの場合 Rs. 7/kg、魚の場合 Rs. 6/kg の手数料を得ている。）</p> <p>(2) 3 年次の養殖、畜養実施計画が決定している。 ⇒養殖、畜養実施計画を作成し（中間報告時に提出）、各対象地域の漁協と養殖・蓄養の実施に向けた話し合いを進めている。カルナドゥカーニ漁協は、ジャフナ県でカニの蓄養を行っている漁協を視察した。</p>				
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(ア) コミュニティの再建支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 村ごとに、コミュニティセンターの使用状況および管理体制は異なっている。各々の状況に合わせて持続できるよう対処する。 <table border="1" data-bbox="470 1809 1428 2056"> <tr> <td data-bbox="470 1809 687 1854"></td> <td data-bbox="687 1809 1428 1854">コミュニティセンター各種プログラムの維持・継続計画</td> </tr> <tr> <td data-bbox="470 1854 687 2056">コクライ村</td> <td data-bbox="687 1854 1428 2056">村の教会の神父を中心としたコミュニティセンター運営委員会が率先してプログラムを企画・実施している。住民に寄付を募るなど、財政的にも継続可能な環境にある。地域住民から尊敬される村の神父を中心としたコミュニティセンター運営委員会に引き継ぐことで、プログラムは継続される見通しである。</td> </tr> </table>		コミュニティセンター各種プログラムの維持・継続計画	コクライ村	村の教会の神父を中心としたコミュニティセンター運営委員会が率先してプログラムを企画・実施している。住民に寄付を募るなど、財政的にも継続可能な環境にある。地域住民から尊敬される村の神父を中心としたコミュニティセンター運営委員会に引き継ぐことで、プログラムは継続される見通しである。
	コミュニティセンター各種プログラムの維持・継続計画				
コクライ村	村の教会の神父を中心としたコミュニティセンター運営委員会が率先してプログラムを企画・実施している。住民に寄付を募るなど、財政的にも継続可能な環境にある。地域住民から尊敬される村の神父を中心としたコミュニティセンター運営委員会に引き継ぐことで、プログラムは継続される見通しである。				

	コクトルワイ村	コミュニティセンターは子どもたち向けの塾を中心に使用されている。塾の授業への出席率が高いものの、授業料徴収率が低く、現状が続けば、3年次以降の塾などの教室の継続が困難な状況にあった。しかし、最近赴任した小学校の校長が非常に熱心で、プログラムの継続性を重視し、子どもたちは少額を支払って毎回プログラムに参加するようになっている。コミュニティセンター運営委員会と徴収率アップに向けた話し合いを行っている。
	コーヴィルクデイルプ村	様々な用途に使用されている活発な村である。プログラムの授業料徴収も順調で着実に貯蓄額が増えている。また、センターの部屋を貸し出して賃料を得て積み立てるなど自立的な運営を始めている。更に収入を得る手段も検討しており、コミュニティセンター運営委員会が自立して運営していける見通しである。
<p>(イ) 生活再建支援</p> <p>● 各せり場の状況に合わせて持続できるよう対処する。</p>		
<p style="text-align: center;">せり場の維持・継続計画</p>		
カルナドゥカーニ村		せり場の完成前から試験的にせりを開始しており、漁協がせりを通じて得た収益の貯蓄額は徐々に増えている。着実にせり場が稼働され収入増になるよう運営の助言・指導を行う。
カラパドゥ村		せり場の完成前から砂浜で自発的にせりを始めていた漁協である。近隣の買い手からも認知されており、既に活気のある状態である。拡大を目指し助言・指導を行うが、現時点でも十分に継続性のあるせり場である。